



7/25 陸上自衛隊視察研修&取引支援セミナー



5/14・15 陸上自衛隊隊体験入隊



7/27させば自衛隊グルメ オープニングセレモニー



6/21 海上自衛隊取引支援セミナー

佐世保自衛隊後援会だより

（発 行）
佐世保自衛隊後援会
会長 金子 卓也
佐世保市湊町6番10号
（佐世保商工会議所内）
TEL (0956) 22-6121

佐世保自衛隊後援会



■陸上自衛隊隊体験入隊

5月14日・15日にかけて、陸上自衛隊相浦駐屯地にて1泊2日の体験入隊を実施し、佐世保市内の会員企業等から14名が参加しました。初日は敬礼や行進等の基本教練、心肺蘇生等の救急法、コンバスコース等を学びました。2日目は重たい荷物を背負い、約10kmの道のりを全員が完歩しました。参加者からは「目に見えないところでの過酷な訓練によって我々の平和が保たれていると実感した」などの感想が聞かれ、改めて自衛隊へ感謝の気持ちを抱くことができた2日間となりました。

■海上自衛隊視察研修&取引支援セミナー

6月21日（金）海上自衛隊佐世保地方総監部のご協力のもと、視察研修&取引支援セミナーを開催し、19社23名が参加しました。守屋正貴契約課長より佐世保地方隊の概況、令和5年度の契約実績、入札制度の種類や各種手続きについて、説明いただいた後、入門手続きや入札室の見学を行いました。現在、佐世保に在籍する艦艇は護衛艦16隻を含む21隻。令和5年度は290億円の契約が実行され、うち5億円はオープンカウンター方式による契約でした。参加者からは積極的な質問があり、今後の取引促進に向けた有益な情報共有の機会となりました。

■陸上自衛隊視察研修&取引支援セミナー

7月25日（木）陸上自衛隊水陸機動団ならびに第363会計隊のご協力のもと、2年ぶりとなる相浦駐屯地視察研修&取引支援セミナーを開催し、14社22名が参加しました。午前中は広報班による概況説明を受けた後、緊急脱出訓練場や水陸両用車AAV7を見学。隊員食堂での体験喫食後は、第363会計隊 坂井博末隊長より、第363会計隊の



主催者挨拶をする金子会長



清水海将補によるご挨拶

総会後は陸上自衛隊水陸機動団長 北島陸将補による防衛講話を開催。また懇親会ではこの度異動となられた海上自衛隊第2護衛隊群司令 清水徹（ひとし）海将補より2年5ヶ月にわたる佐世保での勤務を振り返り、印象に残った出来事や、佐世保自衛隊後援会ならびに地域の皆様に向けた感謝の想いをお話いただきました。

■させば自衛隊グルメ2024オープニングセレモニー
海上自衛隊、陸上自衛隊、海上保安部のカレーを市内飲食店が忠実に再現して提供する「させば自衛隊グルメ」。2024年度事業スタートを告げるオープニングセレモニーを、7月27日、海上自衛隊サマーフェスティバル会場内で開催しました。各部隊から指揮官5名、提供店舗から10名に出席いただき、部隊自慢のカレーを存分にPRしていただきました。また、重信哲実行委員長による事業開始の合図を、海上自衛隊佐世保音楽隊のファンファーレが華やかに飾りました。

■佐世保自衛隊後援会 令和6年度定期総会 懇親会

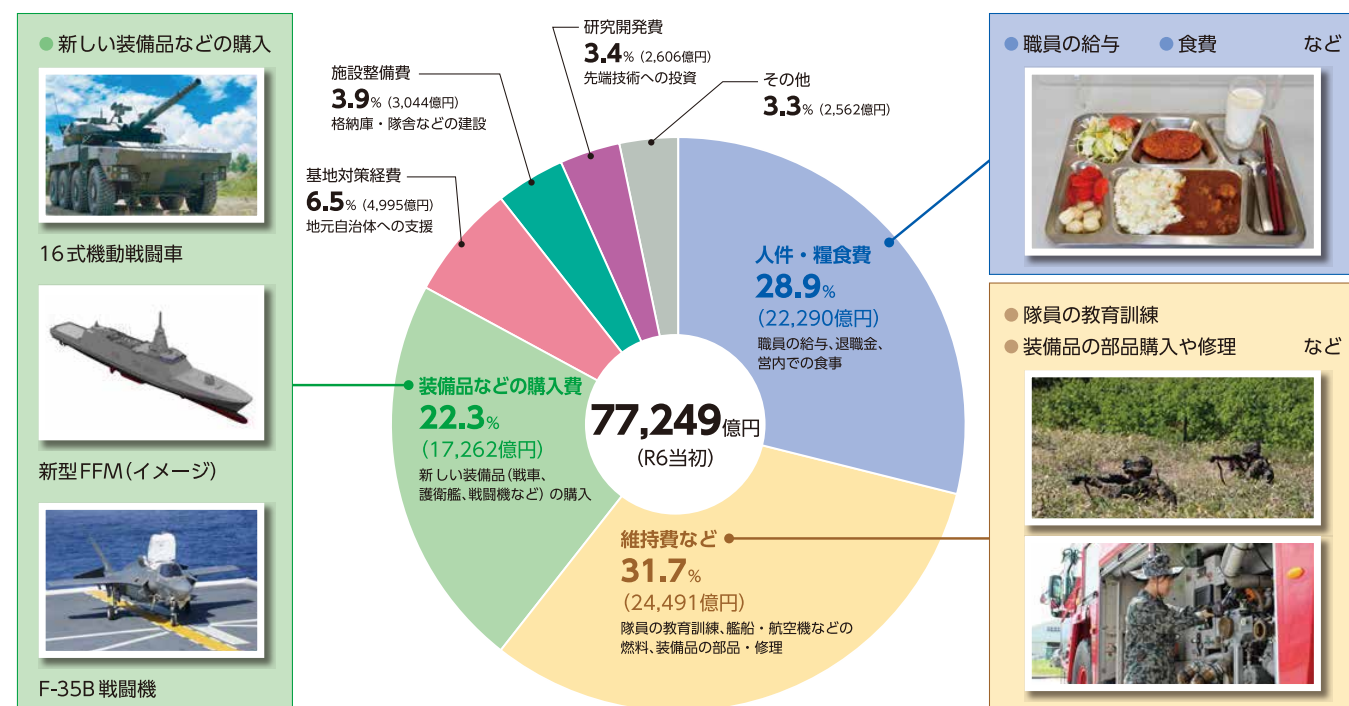
概要と契約実績、入札参加方法等について説明を受けました。相浦駐屯地と崎辺分屯地では、昨年度約15億円の発注が行われ、うち4.1億はオープンカウンターによる発注でした。

令和6(2024)年度「防衛関係費」内訳

～日本の防衛に必要なお金はどのように使われているのか～

（資料出典：まるわかり日本の防衛～はじめての防衛白書2024～）

令和6(2024)年度の「防衛関係費」は約7.7兆円(前年度比約17%増)です。そのうち職員の給与や、部隊を維持するお金などが約60%を占め、約22%を新しい装備品などの購入に使っています。



7つの分野を中心に防衛力を整備します。

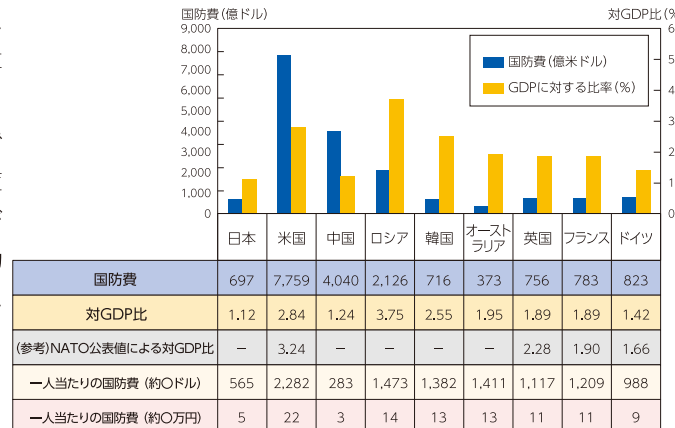
- 国際法違反となるウクライナ侵略が起こるなど、国際法などのルールを壊すような挑戦を受け、新たな危機の時代に突入しています。
- そのため、国家防衛戦略などでは、日本への攻撃を抑止すると同時に、万が一に備えることが必要であり、防衛関係費を大きく増加させ、防衛力を整備することとしています。
- 増やした防衛関係費をどのように使うのかも重要です。スタンド・オフ防衛能力、統合防空ミサイル防衛能力など、「日本を守るために強くする7つの分野」を中心に、計画的に整備を進めていきます。

日本は防衛関係費を大きく増やしているけど、他国と比べてどうなの？



国防費について、国際的に統一された定義がなく、予算制度も異なるので、他国と正確に比較するのは難しいです。ただし、令和5(2023)年度の日本の防衛関係費と各国が公表している国防費を簡易的に比較すると右のようになります。

（注）細部は「令和6年版防衛白書JP234を参照



7月29日
防衛講話
概要

「防衛 この1年」

陸上自衛隊水陸機動団長兼ねて相浦駐屯地司令

陸将補 北 島

はじめ



水陸機動団長の北島二（ごう）います。佐世保自衛隊後援会の皆様には、自衛隊に対して絶大なご支援、ご声援をいただき心より感謝申し上げます。本日は昨年度1年間を振り返って、我が国にどのような安全保障上の出来事があつたのかについてご紹介をしたいと思います。

中国海警尖閣諸島領海侵犯

新年度初日に中国の海警が我が国の尖閣諸島の領海を侵犯するという出来事が起こりました。中国海警局というのは日本という海上保安庁ですが、2018年より中国軍をコントロールする中央軍事委員会の指揮下に入っており、大きな大砲を積んだ船がどんどん増えてきている状況です。海警は年間を通じて毎月定期的に尖閣の領海侵犯をしており、繰り返す中で既成事実化を図ろうとしていると考えられます。

我々はこれに慣らされずに1回1回を重く受け止めて、現状変更を許さないような取組みが求められています。

南シナ海における進出パターン

南シナ海でも同じような領有権問題が起きます。彼らの行動パターンは、全く自分のものではないにも関わらず、自分のものだと宣言するのが第二段階で、第二段階は漁民の活動や海洋調査という非軍事の分野でプレゼンスを強化し、そこに中国がいるのが当たり前という既成事実を構築していきます。正直言いますと南シナ海、東シナ海ともに第二段階まで来てしまつております。

三段階目は漁民が遭難したと言つて上陸をし、それを保護するという名目で軍隊を島嶼に進出させ、実効支配をしていくというものです。南シナ海は元々島ではなく、珊瑚礁に囲まれた環礁のようなところでした。そこを埋めてレーダーサイトや滑走路、対空ミサイルなどを設置し、完全に軍事化しています。これを東シナ海において許してはいけないと我々は強く認識しています。

中国の進出パターンにはもう一つ特徴があります。それは力の空

白が生じると、そのタイミングで進出してくるということです。既に南シナ海で4回ありました。

1つ目は第二次世界大戦が終つて間もなくのベトナムです。元々フランス領でしたが、フランスが敗れて撤退し、軍事的な力の空白が生まりました。その時に中国が歩みを進めたのです。2つ目はベトナム戦争が終わり、米軍が引き揚げた時、3つ目は冷戦後にソ連軍のプレゼンスが弱まった時、そして4つ目は1992年にアメリカ軍がフィリピンから撤退し、米軍の閉鎖をすることが決まつた時です。「今なら進出できる」と中国が思うような力の空白を作つてはならない。南シナ海の事実から得られるつの教訓ではないかと思っています。

中国海軍空母太平洋進出

4月5日から4月24日まで、中国海軍の空母「山東」が沖ノ島島南方に至るまでの海域に進出して活動しました。海上自衛隊が付きつきで警戒監視の目を光らせておりましたが、発着艦回数は620回に上りました。昔は中国の沿岸域でしか活動し得なかった中国ですが、最近は南西諸島第一列島線を越えて、太平洋・日

本海に進出する動きが目立っています。

「A2AD」能力の強化

中国が何を考え、軍備増強軍事活動を活発化させているか、アメリカのシンクタンクの二つの見方は、「アクセス阻止・エリア拒否能力（Anti Access/Area Denial）」を向上させようとしているのではないかと分析しています。例えば台湾有事が起こった際に、アメリカ軍が台湾を支援するという動きが考えられますが、そういった外部からの接近に対して、アクセスを阻止し、中国近海エリアの使用を拒否することです。

彼らがこの能力を高めようとする動機には歴史があります。1995〜96年の台湾海峡ミサイル危機です。独立志向が強いとみられていた李登輝が、台湾総統選で当選するのを阻止するために、中国軍は台湾の沖合にミサイルを打ち込みました。この時アメリカ軍は空母2隻を台湾近海に派遣して牽制し、事態は急に沈静化しました。なぜなら、中国は当時、アメリカの空母2隻に対抗できる能力を持っていなかったからです。それ以来、中国はアメリカの空母に対抗できる力を持たなければならぬと決意し、対艦弾道ミサイル（空母キラー）を開発しました。米軍がまとめた中国軍と西太平洋に所在する米軍の戦力の比

較を見ると、2021年において航空戦力・海上戦力は少なくとも量的には中国が優勢、また宇宙領域においても中国軍の革新が目覚ましい状況となっております。さらに2025年の予測でも、中国軍の増勢が進むというのが確実な将来と見られています。

こうした現実には日米同盟は対応していかなければなりません。現に第一列島線を有しているのは日米同盟側です。この地形を最大限に活用して、南西諸島に中国軍を寄せ付けない対艦ミサイルなどを周到に配置すれば、中国の野望を現実のものにさせないことができるのではないかと分析しています。陸上自衛隊では既に石垣島、宮古島、沖縄本島、奄美大島に地对艦ミサイルの配備を進めています。

ウクライナへの自衛隊車両引き渡し

5月24日に、ウクライナへの自衛隊車両の引き渡し式を行いました。ウクライナに対して、防衛省・自衛隊は様々な装備品の提供、ウクライナ傷兵のリハビリのための病院受け入れなどの支援を行っております。装備品の提供としてはヘルメット、防弾チョッキ、食料やドローンに加えて、自衛隊の車両100台等を支援させて頂きました。今回のロシアによる侵略がロシアにとつての成功体験になるような結果に導いてはならない

という思いで、ウクライナへの支援を続けています。

主権国家に対するあからさまな侵略行為は、我々にとつても大きな衝撃でした。自国を守る十分な能力を有していないと思われちゃうと、侵略してくる国が実際にあるということ。自国を守る能力、手強いと思わせる防衛力を持ち、相手に伝え分らせることが大事だという、大きな教訓となりました。

沖縄近海の光ファイバー海底ケーブルから中国製盗聴装置発見

6月4日に右記のような報道がありました。沖縄の通信の99%は海底ケーブルに頼っています。我が国がインターネットでアメリカのサイトにアクセスできるのは光ファイバーがあるからでして、非常に重要なインフラであり、かつ妨害されるようなことがあれば、致命的なポイントであると言えるのではないかと思います。

崎辺分屯地創立4周年行事

10月15日、崎辺分屯地にて開設4周年記念行事を実施し、水陸両用車AAV7試乗や水上航行展示などを実施しました。崎辺地区は大きく変貌を遂げようとしております。補給施設や大きな係留施設の整備などが進んでおり、係留施設ができると水陸両用車をそのまま輸送艦に積み込むことが可能となり、オペ

レーションの迅速性・効率性向上に期待しています。

能登半島地震

災害はいつ起こるか分からないということを改めて痛感させられる日付での発災となりました。元旦であつても災害派遣の備えをしている部隊が、陸上自衛隊では全国に3900名おります。能登半島地震における活動実績でございますが、人命救助は約1040名、入浴支援は48万名を超え、現在も継続して行っております。

能登半島での活動期間は211日（7月29日現在）で現在も継続中ですが、東日本大震災の174日を超える過去最長の災害派遣活動となっております。

日米インド太平洋軍司令官談話

3月20日のアメリカ上院議会で、米インド太平洋軍司令官が、「中国人民解放軍が2027年までに台湾に侵攻しようとする習近平国家主席の目標を達成しつつあることをあらゆる兆候が示している」と証言しました。

過去にもバーンスCIA長官が、習近平国家主席が「2027年までに台湾侵攻を成功させるための準備を人民解放軍に指示したことをインテリジェンスとして把握している」という発言をしています。2027年というのは人民解

放軍の創建100周年の記念の日でもあり、習近平が仮に異例の4期目の国家主席を希望するとして、そのための党大会が行われるのは2027年で、何らかの実力を見せようとするかもしれない。そのためにも我々も取り組みを急がなければならないと思っております。

第3水陸機動連隊等新編

3月21日に第3水陸機動連隊を編成いたしました。我々も急ピッチで南西防衛の強化に取り組んでおります。

同じく3月には島嶼防衛用高速滑空弾の発射試験をアメリカで行い成功させました。これはどこかの島が攻められた時に、他の島から射撃をして、侵略を簡単に成功させないようにする効果が期待されます。

令和6年度予算成立

3月28日に今年度予算が成立しました。いくつか大きな自衛隊関連の予算について紹介したいと思います。

①無人水陸両用車の開発

今の水陸両用車はアメリカ製で、1970年代に採用された年代物の装備です。無人水陸両用車は島のあらゆる正面から突入できる機動性と、非常に危険な敵が待ち受けている正面に最初に行かせる戦力として期待しています。

②水際障害処理装置の導入

上陸する際の砂浜には地雷や地雷が蒔いてある可能性が考えられますが、今はダイバーが砂浜に上がつて、障害を人力で処理するという方法しかありません。処理するロケット弾を洋上から遠隔で投射する装置取得のための予算が認められました。

③12式地对艦誘導弾能力向上型

長射程の12式地对艦誘導弾能力向上型の開発が続けつ、量産にも着手し、最初の納入を1年前倒しの2025年度末に行うための予算が認められました。

④ドローン・スウォーム対処能力

ウクライナ戦争でドローンがいかに力を発揮するのかが分かったわけですが、残念ながら今の時点で、敵のドローンを上手く打ち落とす手段がありません。現在防衛省・自衛隊が敵のドローンに対抗する手段を獲得すべく、高出力レーザーに関する研究、高出力マイクロ波に関する研究を急ピッチで進めております。

⑤常設統合司令部の設置

現在は防衛大臣の下に臨時で統合任務部隊を編成し、作戦の特徴によつて陸海空の誰かが司令官に任命される仕組みです。新年度予算では、普段から陸海空を指揮する統合作戦司令官を市ヶ谷に常設することが決まりました。

2024年度採用者数

採用計画数約2万名に対し、



昨年度採用できたのは9,959名対計画比51%という結果となっております。これは非常に危機感があると我々は考えております。処遇面の改善などの魅力化、省人化・無人化、OBや民間などの部外力の活用に取り組んでいるところです。

それと共に、女性に活躍してもらうことも大事だと考えており、取り組み計画を年度末に改訂しました。計画策定当時の平成27年度は、女性自衛官比率は5.9%、採用者に占める比率は10.9%でした。令和5年度は女性自衛官比率8.9%、採用者に占める比率は18%と目標数値以上となっております。我々水陸機動団も年々女性が増えていて、今は50名以上が活躍しています。今後は女性の力もフル活用して、水陸機動団のみならず、自衛隊全体の増強に努めてまいります。

佐世保港内視察研修・意見交換会 開催！ ～佐世保港機能充実のためのグランドデザイン(再構築)への取組みを～



6月26日（木）、佐世保商工会議所では、海上自衛隊佐世保地方総監部の協力のもと、佐世保港内視察研修並びに意見交換会を実施しました。

■主旨

我が国を取り巻く安全保障環境は、現在二層厳しさを増している状況の中、本県に所在する自衛隊の役割と任務は、海外との国境を接する長崎県にとつては、非常に重要な存在であります。

特に佐世保市は1889（明治22）年に海軍鎮守府設置以来、基地の街として急速に発展してきた歴史があり、現在も、海上自衛隊、陸上自衛隊及び米海軍佐世保基地が存在する基地の街として、佐世保市の経済を大きく支えております。

佐世保港は、背後地は山に囲まれ、湾口が狭く奥に広がる形状で、湾内水深が深い天然の良港として明治政府が認定し、現在もその施設を利用しての状況です。しかし、佐世保港全体が十分に活用されず、自衛隊及び米軍艦船の入出港が増加する傾向の中で、岸壁不足が課題となっており、既設岸壁の再整備及び新たな岸壁の増設が急務な状況であります。さらに、前畑弾薬庫周辺地には、民間の住宅が隣接するなど、危険な状況が続く、移転が決定されながら進展しておらず、市民の安全のためにも早期移転が喫緊の課題です。跡地の利用については、今後海上自衛隊の艦船の集約港として十分活用するとともに、併せて佐世保に分散する自衛隊施設が、崎辺前畑地区と一体的に活用・集約することで、基地機能の充実が図られると思われま

このように将来的な佐世保港の機能充実のためのグランドデザイン（再構築）を国家プロジェクトとして取り組んで頂きたい、今回の佐世保港の視察を行うものであります。

■参加者

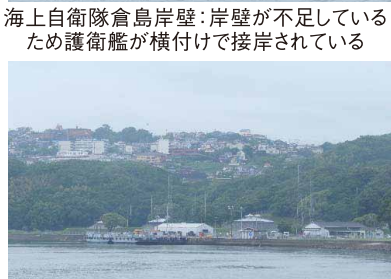
金子容三衆議院議員、今田克彦防衛省在日米軍協力課長、原田道明防衛省西日本協力課長、俵千城海上自衛隊佐世保地方総監、稲田文司佐世保地方総監部幕僚長、大瀬良潤長崎県北振興局長、

今富洋祐長崎県危機管理部長、宮地智弘長崎県産業労働部長、宮島大典佐世保市長、林健二佐世保市議会議員、北村敬男佐世保市基地政策局長、杉本和孝佐世保市企画部長、山川信彦十八親和銀行取締役頭取、大串祐一十八親和銀行取締役常務執行役員、金子卓也会頭、山口嘉浩副会頭他

■佐世保港内視察

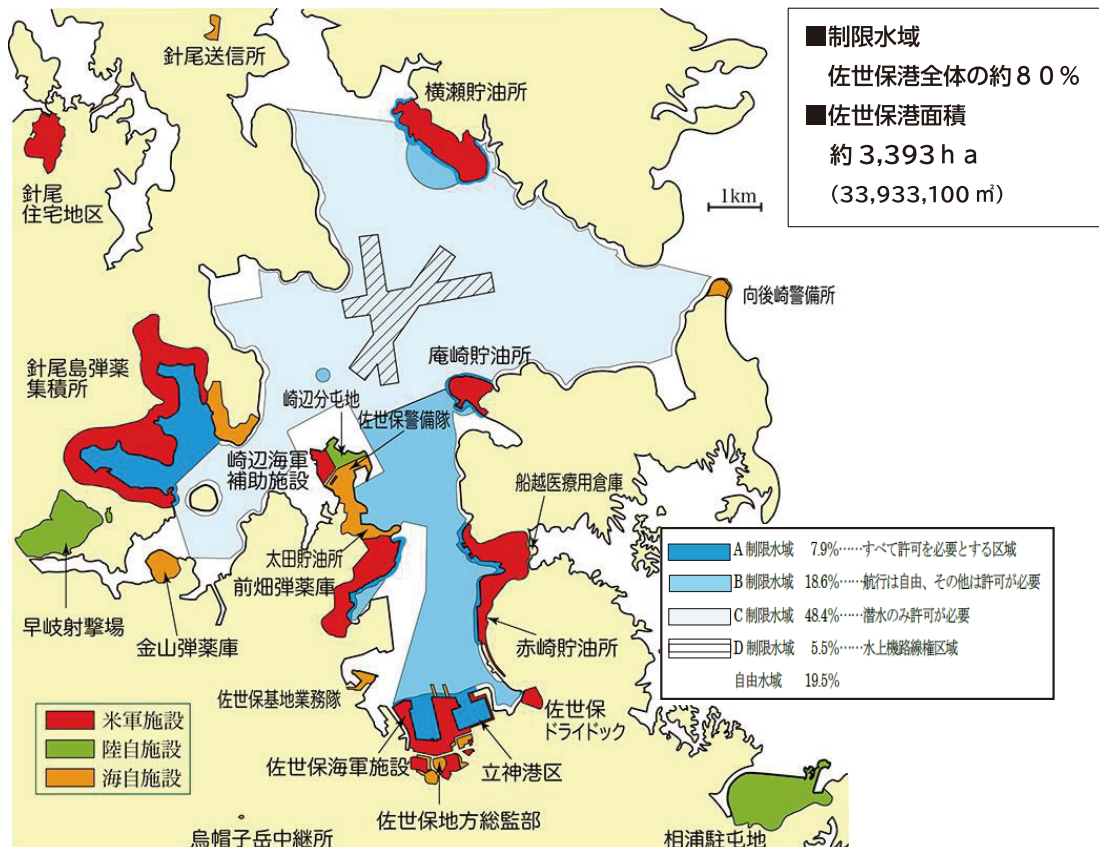
倉島岸壁から海上自衛隊佐世保地方総監部の曳船に乗船し、自衛隊、米海軍施設を視察しました。あらためて、佐世保港には基地施設が多数所在しており、岸壁の増設が急務であることを確認しました。

- ①前畑弾薬庫…2011（平成23）年11月開催の日米合同委員会で、前畑弾薬庫は針尾弾薬集積所に移設した後、返還されることが基本合意されました。その後、具体的な進捗がなく現在に至っています。
- ②針尾弾薬庫…針尾地区には自衛隊、米軍が使用する弾薬庫が所在します。針尾弾薬集積所の整備や米軍住宅不足の解消などを条件に前畑弾薬庫を返還することを正式合意しています。
- ③米海軍横瀬貯油所…佐世保港の対岸に位置する西海市の貯油所。太平洋配備分の1/3を占める12隻のLCCAを整備できる駐機場もあります。
- ④庵崎貯油所…現在、米海軍が使用しています。海上自衛隊は1965年から土地の一部を共同使用しています。



海上自衛隊倉島岸壁：岸壁が不足しているため護衛艦が横付けで接岸されている

前畑弾薬庫：民間住宅が隣接している



■意見交換会

佐世保港視察研修終了後、場所を佐世保商工会議所に移して意見交換会が開催されました。ここでは、意見交換の一部を紹介します。

—金子会頭 本日の視察研修は、まずは佐世保港の現状把握する事を目的に実施しました。今後も防衛基地を中心とした街づくりが非常に重要と考えています。将来の佐世保のグランドデザインを考え、それを国策に反映して頂くような方向性を見いだせればありがたいと思っています。

—金子衆議院議員 初めて海から佐世保港を視察させて頂きました。向後崎をはじめ昔からの歴史が蓄積されていることを認識でき、昔ながらの施設は歴史遺産として観光に使えるものと思っています。今後も防衛の拠点として佐世保港を拡充していくため、防衛省、自民党の議連の皆様と、本日頂いた意見をもとに検討してまいりたいと思います。

—宮島市長 机上で議論するよりも、直に佐世保の港を見ることができ、改めて佐世保の港の可能性を感じることができました。新たなことを行うことも重要であります。歴史的なものをどのように引き継ぎ、どうやって伸ばしていくのが本市の課題だと思っています。

—林市議会議員 議会でも基地問題についての議論が盛んにおこなわれており、今後も国に対しての要望を市と両輪となって進めていきます。

—金子会頭 米海軍空母が佐世保に来港のおりは、庵浦町の沖に停泊しますが、乗員の上陸や電力、食料供給などグランドサービスは十分にできないのではと思います。

—俵佐世保地方総監 沖に停泊する場合は、限られた量の油や食料等の運搬となり、接岸するよりはるかに手間と時間がかかります。

—金子衆議院議員 将来崎辺地区への接岸は可能ですか。

—俵佐世保地方総監 護衛艦「いずも」クラスは接岸できるよう設計されていますが、米空母に対応できるか確認できていません。崎辺地区が整備され

ると崎辺を提携港とする船が増えますが、そうすると乗組員のために近隣に宿舎を用意しないといけない、現在土地を探している状況です。

—今田在日米軍協力課長 弾薬庫を移すということとは合意されていますが、どういう形で移すかということはその後の交渉に委ねられていました。今私たちが取組んでいるのは、どんな形でどう取組んでいくのかを決めることです。米側もまとめなければいけないという認識を強めており、私の最重要事項の1つとして鋭意取り組んでまいります。

—林市議会議員 目に見える形として今後のスケジュールがある程度出てこないかと先に進めない状態になつてきています。是非、この1、2年の間で示してほしいと思います。

—金子衆議院議員 基地を生かした街づくりに向け、佐世保市はどういう取組を行っていますか。

—宮島市長 基本的には、基地を活かした産業の振興を中心とした街づくりと思っています。米軍では艦船の造修事業を極東で進めていく方向であり、このような時機を捉えた街づくり構想を進めていきたいと思っています。

—金子会頭 防衛関連企業の佐世保への誘致を促進し、佐世保経済のすそ野を広げていきたいと考えています。

—宮島市長 街づくりの中には岸壁の整備が必要で、現在崎辺が整備されているが、新たな岸壁を含めた佐世保港の再構築が必要です。

—大瀬良県北振興局長 地元の感情や特性を理解しながら、街づくりを進めていきます。

—林市議会議員 数年前までは、佐世保市は基地返還をお願いしていましたが、基地を充実する基地政策方針に変わり、今では基地を活かした街づくりになつてきました。



2024(令和6)年度 自衛官募集

国を守る公務員。それが自衛官です。
自衛官募集支援について、皆様のご理解とご協力をお願いします。

（資料出典:防衛省ホームページ）

自衛官候補生

（対象年齢：18歳以上33歳未満）

—柔軟に将来を選択できる任期制自衛官—

自衛官となるために必要な基礎的教育訓練を経て、任用期間が定められた「任期制自衛官」に任官する制度です。様々な訓練や職務を通じた技術の習得、任期満了後の就職に向けた資格の取得など、希望に合った将来が描けます。

■令和6年度募集人員

（男子）陸／約5,000名、海／約1,000名、空／約1,700名
（女子）陸／約750名、海／約200名、空／約600名

■受付期間

年間を通じて随時

■初任給

高卒／198,800円、大卒／209,500円

※自衛官候補生の間（入隊から約3ヶ月）は、月額157,100円（自衛官候補生手当）となります。

予備自衛官補

（対象年齢：18歳以上52歳未満）

—一般公募—

社会人や学生といった自衛官未経験者を「予備自衛官補」として採用後、所定の教育訓練を経て「予備自衛官」に任命され、各種事態において自衛官として社会に貢献できます。「一般」と「技能」（語学、医療など）のコースがあります。

■令和6年度募集人員

約1,540名（うち九州／西部方面隊管内 約170名）

■受付期間

第2回 令和6年6月1日（土）～9月19日（木）

■初任給

教育訓練招集手当／日額8,800円（手当は課税対象）

※所定の教育訓練を修了した後、予備自衛官として任用

～ご質問、お問い合わせは自衛隊地方協力本部まで～

■自衛隊長崎地方協力本部／長崎市出島町2-25 TEL.095-826-8844

■自衛隊長崎地方協力本部佐世保出張所／佐世保市木場田町2-19 TEL.0956-23-1231

自衛官募集
ホームページ



自衛官募集
X(エックス)



一般曹候補生

（対象年齢：18歳以上33歳未満）

—各部隊の中核を担う自衛官—

部隊の基幹である曹となる自衛官です。入隊後、教育課程や部隊勤務で知識や経験を積み、それぞれの職域のスペシャリストとして活躍します。自衛官の基礎知識はもちろん、専門的な技能まで、じっくりと着実に身に付けることができます。

■令和6年度募集人員

陸／約4,200名（うち女子約500名）、海／約1,630名
（うち女子約250名）、空／約1,400名（男女区分なし）

■受付期間

第3回 令和6年10月1日（火）～11月28日（木）

■初任給

高卒／198,800円、大卒／209,500円※

※初任給は学歴、職歴等により異なります。また、大卒者の初任給は、複数年かけて217,000円まで引き上げられる予定です。

陸上自衛隊高等工学校

（対象年齢：17歳未満の男子）

—先行き不透明な現代を生き抜く力を養う—

高機能化・システム化された装備品を運用する陸上自衛官を養成するための学校です。国際社会においても自信をもって対応できる自衛官を育てます。

※令和10年度から陸・海・空共同、男女共学の学校になります。

■令和7年度入校予定

（一般）約230名

■受付期間

令和6年10月1日（火）～令和7年1月16日（木）

■生徒手当

月額／117,900円

佐世保地方総監部施設 視察研修会実施

2023（令和5）年12月には佐世保地方総監部施設の視察研修会を実施しました。金子容三衆議院議員、金子自衛隊後援会会長、山口副会長、池田副会長などが参加しました。

はじめに鹿子前宿舎、続いて今福南宿舎を視察。鹿子前宿舎は1973（昭和48）年に完成し、5階建てで佐世保地方総監部までは約3.5km、赤崎小学校まで徒歩10分程度の場所にあります。今福南宿舎は1978（昭和53）年完成し、5階建てで徒歩5分程度で自衛隊佐世保病院等に行けるなど、佐世保地方総監部に近い場所に位置しています。各宿舎を視察し、24時間、我が国の平和と安全を守る自衛官と、そのご家族の住環境整備を国へ働きかける必要性を強く感じました。

その後、崎辺地区にある佐世保弾薬整備補給所に移動し、施設の概要や対岸にある針尾弾薬庫、庵崎貯油所、横瀬貯油所について説明を受けました。また、現在、崎辺東地区で建設が進む海上自衛隊係留施設（総延長950m）の大型栈橋の工事進捗状況について説明を受けました。



2023年12月 佐世保地方総監部施設視察研修会



4/10 佐世保地方総監部福田幕僚長着任挨拶



4/15 護衛艦「いずも」特別公開



5/28 特務艇「はしだて」特別公開



6/29 水陸両用車訓練見学



8/6 海上自衛隊第2護衛隊群司令江畑 1等海佐着任挨拶

自衛隊の動き

■福田佐世保地方総監部幕僚長着任挨拶

4月10日（水）、海上自衛隊佐世保地方総監部幕僚長の福田丈司海将補が着任挨拶のため来所されました。福田幕僚長は大阪府出身で1990年に防衛大学校を卒業。その後は経理や補給・業務管理などを教育する第4術科学校長、海上幕僚監部総務部長などを歴任してこられました。佐世保での勤務は初とのことでした。

■護衛艦「いずも」特別公開

4月15日（月）、第1護衛隊群所属の護衛艦「いずも」の特別公開が行われました。護衛艦「いずも」は、全通甲板を有するヘリコプター搭載護衛艦として平成27年3月に就役。全長248m、基準排水量19,500トンで、令和3年10月には海上自衛隊として初めて固定翼航空機（F35B）の発着艦を成功させました。

■特務艇「はしだて」特別公開

5月28日（火）、横須賀警備隊所属の特務艇「はしだて」が佐世保に入港、特別公開及び昼食会が行われました。「は

しだて」の主な任務は、災害派遣等への対応及び、来賓客への接遇、広報活動。名前は天の橋立に由来し、国民、諸外国との間の懸け橋となることを願い、命名されました。

■水陸両用車訓練見学

6月29日（土）、水陸両用車の海上機動訓練が加津佐海岸（南島原市）で行われ、普段は見ることのできない水陸両用車の海上への進入、上陸訓練を見学しました。また、昼食では自衛隊の戦闘糧食を喫食しました。

■江畑第2護衛隊群司令着任挨拶

8月6日（火）、海上自衛隊第2護衛隊群司令の江畑泰孝1等海佐が着任挨拶のため来所されました。江畑2群司令は滋賀県出身で、平成11年3月防衛大学校（土木工学）卒業後、きりさめ艦長や第6護衛隊司令、統合幕僚監部指揮通信システム企画課長等を歴任し、8月2日付で着任。前任の清水徹海将補は、護衛艦隊司令部幕僚長に異動されました。